



山陽学園大学 (岡山県)



講義を受講するだけでなく、大学祭・うらじゃ祭り参加等の体験学習を盛り込んだプログラムです。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1886年(明治19年)、山陽英和女学校として誕生した山陽学園は、現在、大学院、大学、短期大学、高校、中学校、短期大学附属幼稚園の6機関から構成される総合学園になりました。

大学は1994年に開学し、看護学部・総合人間学部(生活心理学科、言語文化学科)・地域マネジメント学部の3学部、4学科で、同じ敷地内に健康栄養学科とこども育成学科を持つ短期大学、そして短期大学附属幼稚園があります。

大学、短期大学併せて学生数1000人程度の小さな大学ですが、それだけアットホームな雰囲気、教員と学生の距離が近く、教員が親身になって相談に乗ってくれるという利点があります。

クラブ活動も盛んで、バレーボール部、卓球部、バドミントン部、軽音楽部、茶道部、児童文化部、日本語ボランティア部、うらじゃ部等が熱心に活動しています。毎年8月に行われる「うらじゃ祭り」には、留学生・日本人が一緒になった「山陽学園大学ワンダフルワールド」チームで参加しています。さらに、日本語・日本文化研修留学生や中長期留学生のような、半年から1年を本学で過ごす学生のために、日本語ボランティア部の学生が、日本語指導や生活のサポートを担当しています。

また、大学の総合人間学部・言語文化学科には、インドネシア、台湾、中国、ベトナムから留学生が来ており、和気藹々とした雰囲気の中で勉強に励んでいます。常勤・非常勤教員としては、日本人の他に、中国人、アイスランド人、イギリス人、韓国人のスタッフがいます。

② 国際交流の実績

受け入れに関しては、韓国、台湾、オーストラリア、ポーランドの大学間協定校や高校の姉妹縁組校から、中長期留学生、インターンシップ生、日本語・日本文化研修留学生を受け入れ、台湾・中国からはダブルディグリー生も受け入れています。派遣に関しては、アメリカ、イギリス、オーストラリア、韓国、台湾、ニュージーランド、ポーランドの協定校や姉妹縁組校に、中長期留学、語学研修、日本語教育実習、異文化理解実習で訪問しています。

大学間交流協定数 19大学
姉妹縁組校 2高校

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2021年：留学生数33人、日研生1人
2020年：留学生数41人、日研生0人(1名延期)
2019年：留学生数52人、日研生1人

④ 地域の特徴

岡山県は、「晴れの国 岡山」と言われるほど全国の中で「晴れの日」が最も多く、瀬戸内海の温暖な気候に恵まれた県です。フルーツ王国として昔から桃やぶどうが有名でしたが、近年は津山ホルモンうどん、蒜山焼きそば、日生のかきのお好み焼きなど、B級グルメ王国としても注目されています。その岡山県の南部にある、人口約70万人の県庁所在地・岡山市は、中国地方の交通の要で、四国・九州・山陰・関西のいずれの地方に行くにも便利だけでなく、日本三大庭園の一つである後楽園など、歴史的な見所も多いです。また2月には、奇祭「西大寺裸祭り」、8月には桃太郎にちなんだ「うらじゃ祭り」も行われます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a)主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

日本語・日本文化の両方が学べます。小規模大学の特色を生かし、学部生と同じ授業に出席することで、日本人及び留学生との交流を図ります。

また、講義の受講に留まらず、演習科目を受講したり、祭りや研修旅行に参加したりすることで日本での体験を増やし、理論と体験を組み合わせたプログラムを組んでいることが特色です。

③ 受入定員

2名(大使館推薦1名、大学推薦1名)



④ 受講希望者の資格、条件等

(記載例)

- ・ JLPT2級に合格している、または同等のレベルであること。
- ・ 学部の授業についていける日本語力のある者。

⑤ 達成目標

- ・ コース修了者はJLPT2級以上の取得、または前回より高い点数取得を目標とする。
- ・ 修了レポートを作成し、担当教員のゼミで発表する。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2022年9月20日頃～2023年8月10日頃
ただし、日本には8月3週目～下旬まで滞在する必要あり。

⑦ 奨学金支給期間

2022年10月 ～ 2023年8月

⑧ 研修・年間スケジュール(予定)

- 9月 渡日、オリエンテーション（9月20日頃）
- 10月 日本語・日本文化研修留学生歓迎会
創立記念式典参加（中学校・高校見学）
大学祭参加
- 11月 就職懇談会参加
- 12月 クリスマス会参加
- 1月 ホームビジット体験
- 2月 ゼミ卒論発表会参加、裸祭り見学
- 3月 卒業式見学
- 4月 入学式、新入生オリエンテーション見学
中長期留学生歓迎会参加
新入生1日研修参加
- 5月 小学校学童保育見学
- 6月 オープンキャンパス参加
- 7月 日本語弁論大会参加または見学
- 8月 うらじゃ祭り参加、修了式
帰国（8月3週目頃）

⑨ コースの修了要件

- ・ 必修科目12単位、選択科目（16単位（以下、Ⅱ、Ⅲの開設科目を参照）、合計28単位以上を取得すること。ただし、必修科目の履修時間が重複し、両方履修できない場合、他の科目履修で代替可。
- ・ 上記28単位以上を取得した場合、成績証明書の発行可。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

以下の4種類を主として実施する。

- ・ 日本語能力向上のための科目
- ・ 日本事情・日本文化関係の科目
- ・ 日本に触れるアクティビティ系の科目
- ・ 修了研究に関する科目

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（90分×15回） 12単位

①～⑤ 1科目1単位 ⑥～⑦ 1科目2単位

・ 内容

- ①日本語C・日本語D・・・聴解・会話・N1文法・語彙
- ②日本語E・日本語F・・・読解
- ③日本語G・日本語H・・・読解
- ④日本語・日本事情A・・・日本の文化を学ぶ。
- ⑤日本語・日本事情B・・・日本の文化を学ぶ。
- ⑥特別研究・・・レポート作成のための演習。
- ⑦卒業研究I・・・修了レポート作成のための演習。

II) 選択科目（90分×15回） 12単位

1科目2単位 以下の①～④から選択

- ①日本を知る科目
日本史、日本文学特講、古文書学概論、日本文化論など
- ②日本と諸外国の交流について知る科目
日中交流史、朝鮮の歴史と文化など
- ③日本語教育関係科目
日本語学概論、日本語教授法など
- ④その他
心理系、ビジネス系、情報系、英語系などの科目

Ⅲ) 見学、地域交流等の参加型科目 6単位

①異文化理解演習①Ⅰ、Ⅱ 2科目4単位

②交流体験（見学、地域交流等への参加）
2単位

- ・ 日本語ボランティア部員との日本語会話交流
- ・ 大学祭での昔話の読み聞かせ（翻訳を含む）
- ・ ホームビジット体験
- ・ 学童保育見学
- ・ 中学校・高校などの見学、生徒との交流
- ・ うらじゃ祭り参加、裸祭り見学
- ・ 日本語弁論大会参加または見学
- ・ 新入生刈エンション参加
- ・ 入学式・卒業式、ゼミ発表会等見学
- ・ 就職活動体験
就職説明会、就職懇談会等への参加
- ・ クラブ活動等参加
- ・ 日本文化体験（自己選択）
例：演劇鑑賞、研究会参加
- ・ 自国文化紹介体験（自己選択）
例：地域から依頼された活動
- ・ その他

Ⅳ) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本語C～H 日本語・日本事情A～Bを除き
すべて日本人学生との共修あり。



⑪ 指導体制

・共生・グローバル推進センターWG委員、日本語担当教員が主になって指導する。

・日本語ボランティア部の部員（主に総合人間学部言語文化学科の学生）が交流の計画を立てたりサポートをしたりする。

・必修科目の担当教員名は以下の通り。

- ①日本語C・日本語D・・・山根智恵
- ②日本語E・日本語F・・・佐藤雅代
- ③日本語G・日本語H・・・班俣
- ④日本語・日本事情A・・・茶道・剣道・柔道などの専門家（コーディネーター 山根智恵）
- ⑤日本語・日本事情B・・・古川徹他
- ⑥特別研究・・・山根智恵
- ⑦卒業研究I・・・山根智恵

・その他の科目の担当者は、山陽学園大学の常勤・非常勤講師



うらじゃ祭りの様子

■宿 舎

留学生向けの寮はありませんが、大学の近くにはアパートが多くあり、大学で紹介することが可能です。また、ゲストハウスもあります。詳細は以下の通りです。他大学から来た中長期留学生と一緒に、2人で住むこともあります。

①月払いでゲストハウスのような宿舎に住む場合、月3万円～4万円（個室、共同風呂・トイレ・台所有。電気代・ガス代・インターネット代込）です。敷金（最初に支払うお金。2万円程度。帰国時に一部返却される場合もあります）を最初に支払う必要がありますが、家賃は月払いです。

②アパートの場合、1人で住む場合は、月約8万円かかります。2人1部屋の場合は、月約4万円（いずれも風呂・トイレ・台所・家具有。電気代・ガス代・インターネット代込）です。入居時に11か月前払いなので、約50万円～80万円（退去時の清掃代・鍵交換代を含む）を外国送金または入居時に一括現金で支払わなければなりません。

* 岡山は自転車王国で、本学から駅周辺まで自転車で行くことができるため、交通費がほとんどかかりません。自転車は本学が用意します。



歓迎会の様子

■修了生へのフォローアップ

現時点では、日本語担当教員が日本語・日本文化研修留学生の国を訪れることがあった場合、その時に会って様子を聞き、フォローアップに努めています。常にメールで連絡を取り合うことができる状況も作っています。今後はオンライン交流会を行いたいと考えています。

また、在学時に知り合った学生たちと個別にネットワークを構築している研修生もあり、そのような学生については、日本語担当教員は本学学生から情報を得ています。



■ 問い合わせ先

<担当部署>
山陽学園大学共生・グローバル推進センター

住所：〒703-8501
岡山県岡山市中区平井1-14-1
TEL: +81-86-272-6254 (代表)
FAX: +81-86-273-3226 (代表)
Email: chie@sguc.ac.jp (担当者)
for.stu@sguc.ac.jp (センター)

<ウェブサイト>

山陽学園大学：
<http://www.sguc.ac.jp/>